

平成 30 年 施設予約システム更新に係る利用者意見交換会

【開催日時】平成 30 年 10 月 1 日（月）午後 7 時～午後 9 時 25 分

【参加者】60 団体（61 人）

【出席職員】安江公民館長、刈田副主幹、川井主任、紺矢主事、横山主事、
加藤課長（前公民館長）

【会場】西河原公民館 学習室 I

【内容】

1. 公民館からのお知らせ

10 月 1 日付けの人事異動により、館長の加藤が企画財政部市史編さん室長兼社会教育課長に、同部署から異動した安江が公民館長を拝命した。本日と 7 日の意見交換会には、前任の加藤も同席させていただくことをご了承いただきたい。

2. 資料説明

「平成 30 年度利用者懇談会アンケート結果集計表」と「意見の一覧表」、「中央公民館部屋別平均利用時間表」の 3 種類を配布している。

まずは、「平成 30 年度利用者懇談会アンケート結果集計表」だが、上段はアンケート回答の総数での集計表で、下段は、現状を解決する意見が付されていないものを除いた集計である。これは、利用者懇談会でアンケートをお願いした際に、各団体の現状をお書きいただくとともに、広く市民に使っていただくためにはどうしたら良いか意見をいただきたいとお話しした経緯があったため、意見が付されている割合を示した。次に、「意見の一覧表」で、左側に皆様からのご意見、右側に公民館の見解を付している。多くのご意見をいただいたので、事前に目を通していただけるように、各団体の代表者様宛に資料をお送りしている。最後に「中央公民館部屋別平均利用時間表」は、利用者懇談会で各部屋の利用状況に関するデータはないのかとのご要望があったので、過去 3 年間の各部屋の平均利用時間をまとめた。

【意見交換】

利用者）現状を解決する意見が付されていないものを除いた集計とのことだが、理由のない意見も尊重すべきと思う。4 月にあった利用者懇談会での発言についても、誘導的だと感じた。

事務局）皆様の意見は大事にさせていただく。恣意的なものではなく、まだ何も決まっていない状態である。より多くの方に使っていただくためには、公民館の職員だけで判断すべきではないので、皆様から意見をいただいた。

現状を解決する意見が付されていないものを除いた集計については、理由のない団体の意見を無視しているのではなく、意見が付されている割合を示したということである。

利用者）アンケート結果 6 ページの 83、84、85 番の公民館の見解として「ご意見の趣旨が不明です。」となっている団体の意見は削除されているということか。

事務局）集計として削除はしていないが、意見が具体的ではなかったため、お答えできなかった

た。

利用者) 最初の意見の方と同感であったが、前館長からの補足説明があり、建設的な意見があった割合を示しただけであって、決して意見を無視している訳ではないと思った。

利用者) 機械抽選だと連続して外れることもあると思われる。そうするとサークル活動ができなくなり、団体存続の危機となりかねない。アンケート結果でも、存続の危機に対する公民館の見解として、「公共施設である公民館の更なる有効活用に向けて必要な検討作業とご理解ください。どのような形での運用形態になったとしても、ルールに基づいて活動していただくこととなります。」とある。これだと、結果は機械に聞いてくれ、公民館は知らないと言われているようで納得がいかない。また、少ない人員で調整会運営ができるのか。

事務局) どのような運用形態になっても、ルールに基づいて活動していただくことになる。公民館は特定の団体の活動に合わせて運用することはない。公民館のルールに日々の活動を合わせていただくのが原則である。また、調整会が嫌だから機械抽選にしたい訳ではない。少ない人員で事業を展開していくための1つの解決方法として機械抽選を選択している自治体もある。調整会については、一定数の反対意見もある。調整会に足を運ばなくて良いので機械抽選が良いという意見もある。

利用者) 抽選申込時点で申し込み数はわかるのか。

事務局) わかるようになっている。

利用者) 機械抽選の仕組みがどうなっているのか教えて欲しい。申込数の制限があるのかなど、具体的な内容を教えて欲しい。

事務局) 現状のシステムでも、2日を超えて連続で申し込むことはできないようになっているが、1日の中での制限はない。機械抽選する際の優先事項など想定されるものはあるが、それらをすべて組み込むと複雑になってくると思われる。

利用者) 定期的に活動している団体のデータを開示して欲しい。もしくは、団体名はなくても良いので、調整会での重複の傾向のデータがあると対策できるのではないか。機械抽選だと偏った結果にならないか心配である。

事務局) 結果が偏る可能性はあるが、抽選方法を複雑にしない方が偏りが少なくなると事業者から聞いている。

利用者) 私たちは、毎月、日曜日に月1回使用している。機械抽選だと、月1回の団体も、月10回の団体も同じ扱いなのか。それは、公平性が保てない。私たちは、他の団体とコミュニケーションをとることができる月1回の調整会をとても楽しみにしている。月10回とかの団体と一緒にの扱いは公平でないと思う。

事務局) 機械上、当選回数で優先することは可能だと思われる。しかしながら、そういった調整はすればするほど、システムが複雑になってしまう。今回も700を超える団体に通知を送っているので、すべての団体の事情に考慮することは難しい。

利用者) 声の大きい団体が調整会で取っている場面を見てきている一方で、団体の事情をお話しすると他団体も理解していただいている場面もある。調整会の良い部分もあるので、悪い部分を直していく。小さい市だからこその良い部分がある。暖かい調整会もあることも知っていて欲しい。

事務局) 国立市公民館の調整会は利用団体同士で調整している。この方式を狛江で実施するのは難しいと考える。調整会で公平性を保つためには、開催日時をどうするのか、声の大きい団体の問題をどう解決していくのかを考えていただきたい。

利用者) 施設が足りていないと思う。

事務局) 市内には、公民館2館、地域センター4館、地区センター4館、合計10館ある。中央公民館は立地的にも良いため、混んでいて予約が取りにくい印象が強いと思うが、稼働率はホールが90%を超えているが、他は80%程であるため、施設を増やすのは財政的にも厳しいと思われる。

利用者) 私たちの団体は人数が多いため、使える施設が限られている。機械抽選になった場合、定期的に活動しているかどうかは考慮されないとなると、活動の計画が立たなくなり、活動が難しくなるため、是非、調整会の労をとっていただきたい。定期的な活動をしている団体にとって、定期的な活動ができなくなると計画も立てられなくなり、大変困ったことになる。

事務局) 定期的な活動かどうか、月2回なら良いのか、月4回ならどうかなど、こういった活動形態の団体に重きを置くかは公民館としては選べない。

利用者) 施設の数は足りていると思う。調整会は、お互い情報交換もできてとても良いと思う。空いている施設を有効活用して、仲良く使っていきたい。

利用者) 私たち利用団体に聞くのではなく、公民館としての考えを示して欲しい。

事務局) 事務局の都合だけで決めたくないのも、皆さんの事情を考慮して考えたい。すべての皆様が満足する結果はあり得ないと思われる。

利用者) グランドの施設はずっと機械抽選をしている。導入前は、皆不安で公平になるのかという意見があった。機械抽選になって、取れない日も出てきたが、他の有料施設を利用したり、他の団体さんに間借りしたりと工夫して運営している。廃校になった旧4小の空き教室の活用はできないのか。

事務局) 旧4小の空き教室は、耐震面が不十分なため、立ち入りできない状況である。

利用者) 個人的には、調整会にはなかなか出席できないので、機械抽選の方が楽である。調整会に行っても部屋を取れないこともあるし、機械抽選でも外れることがあるので、どちらでも同じだと思う。

事務局) 調整会とは別に、西河原公民館ではホールの特別申請がある。団体の発表会等の催しを行う際に、年1回だけ、6ヶ月前に申し込みができる。機械抽選にした場合は中央公民館でも特別申請を設けるのも1つの方法と考えている。

利用者) 月1回定例で学習会を、年1回くらい講演会をしている。講演会は講師の都合があり、日にちが限定されるため、調整会で譲っていただいている現状があるので、調整会を継続してもらいたい。平日の午前だとどうしても参加しにくい団体もいるので、調整会の時間帯、あるいは曜日を増やして調整したらどうか。利用時間区分は現状のままが良いと思うが、無料にして、利用時間区分を区切らずに、柔軟に対応したらどうか。無料化も考えていただきたい。

事務局) 無料化については、市として議論されていない現状であるため難しい。

利用者) すべての市民が公民館を使う訳ではないので、受益者負担で良いと思う。

利用者) システムが変更になると同時に調整会か機械抽選かを決めなくては行けないのか。新

システム移行後、しばらくしてからではだめなのか。

事務局) 新システム導入後だとお金がかかり、難しいと考える。

利用者) システムの内容は誰が決めているのか。

事務局) 公民館、地域センター・地区センターを所管している地域活性課、体育館を所管している社会教育課、システムの開発業者でシステムの構築をしている。

利用者) その会議に利用者も入れて欲しい。前回のシステム変更の時に、とても不便になった経緯があるため、利用者の意見も取り入れて欲しい。

事務局) ごもった意見ですが、利用者の選抜が難しい。今回のシステムは、全国トップシェアのシステムですので、色々な事例を知っている事業者に参加例を示してもらいながら検討している。

利用者) システムの移行期間はどれくらいあるのか。その間に我々利用者の声を反映できないか。その間に、不具合に対する対応はできないか。

事務局) 移行期間は、2ヶ月程度を予定している。システムについては、微調整はできると思うが、大掛かりなことは難しい。不具合については、意見交換していきたい。

利用者) 他市のシステムを職員が使用して試したのか。

事務局) 各社のシステムをデモンストレーションした。各社一長一短があるため、24時間サポートがある等の条件を考慮して、事業者を決定している。

利用者) 調整会が良いと思っているが、機械抽選になった場合、第1～3希望と申し込みできるのか。

事務局) 可能である。

利用者) 私たちの団体は、調整会を望んでいる。機械抽選になるのであれば対策をしなければいけないので、早めにスケジュールを示して欲しい。

事務局) 検討のスピードを早めて示していきたい。

利用者) 調整会、機械抽選それぞれどういう風にできるのかを示して欲しい。

利用者) 我々は、現状問題なく活動できている。冒頭、決定者は公民館であるとおっしゃっていて安心している。アンケートと本日の意見交換会で、団体の要望はある程度把握できたと思う。すべての団体が望むかたちにはならないので、公民館で決定して、示してもらわないと間に合わないと思う。

利用者) 大金を払っても使い物にならないこともある。事業者まかせでは良いものがないと思う。実績のある所へ、条件設定を絞って、システム設計して欲しい。

利用者) 意見が分かれているので、強硬に決めないで欲しい。

利用者) 情報の開示を必ずして欲しい。

事務局) 今後の方針としては今回の意見を整理し、早い段階で機会抽選等のイメージを示したい。